

# 団長の心のものさし

第35回音楽会  
その真意に迫る

## 苦渋の判断…ノルマ復活

演奏会を開催する場合、舞台上で素晴らしいパフォーマンスを見せることが大事なことは言うまでもない。しかし、そのパフォーマンスを見て聴いてくれる聴衆がいなければ意味はない。要は集客、なのである。

一般的に、演奏団体ではチケット販売ノルマを設定している場合がほとんどだ。うたおにでもかつてはそうであった。

今から15年ほど前の様子はざっとこんな感じだ。団員数は約50名、チケット代金は1枚1,000円、ノルマ数は30枚。したがって収入は1,500,000円。およそ演奏会経費が900,000円。予算上、必ず数十万円の黒字が出る計算になっていた。もちろん団費収

入だけで運営を続けるのは大変だから、演奏会収入は大きな財源だったのである。



現在は団員数も減少、団費収入は激減、演奏会のチケットノルマもない。全体的に安定収入はないに等しいといえる。それを穴埋めするかの

ように招聘事業が多くなっている。もちろん、これが安定収入につながるというわけではないが、演奏会の経費節減の努力も手伝って、余裕があるわけではないが、何とかやりきっているといったところか。

この、なんとかやりきっていることが、むしろ問題なのかもしれない。経費がかからない演奏会に



慣れてしまっている。指揮者、ピアニストへの謝礼や印刷物のデザイン料も必要ない。印刷費も内容の割りに格安だ。

チケット販売を増やさずともまかなえる、この現状が、結果的に集客力の低迷を招いている。

### 収入のためだけではない チケット販売

どうしても金銭的な問題としてチケット販売を取り上げてしまうが、実際には“聴きにきてもらうため”の作業だ。そこを再認識して欲しい。演奏会を開くだけなら、経済的な問題をクリアすれば可能だ。しかし、その演奏会の成否の鍵を握るのは、素晴らしいパフォーマンスを多くの聴衆に聴いてもらい感動や共感を与えることだ。

年間の活動を通してみると、招聘事業など、他人の土俵で演奏することが多くなり、労せず人の前で演奏することに慣れっこになってしまっているように感じる。

こうした現状を受けて、9月開催のうたおに音楽会のチケットの取り扱いをどうするかについて、16日、市内某所で話し合いをもった。

ノルマを掛けない指針は、現段階で成果を挙げていない。それが本公演ではノルマ制の導入に向けての大きな理由である。精神論ではない。いい結果を出せなかったからだ。

しかし、このノルマを売り切っても客席は満席には出来ないどころか、経費的にもギリギリだということを目覚めて欲しい。

合唱団の実態などあってないようなものだ。個々が気を緩めれば、総力は想像以上に落ち込むのである。うたおには誰かが支えているのではない。“あなた”の問題なのだ。



## うたおにの5月20日(木)の様子

### 練習内容

「Mass From Two Worlds」より

Gloria

The Beatitudes

Geistliches Lied Op.30

The Lord bless you and keep you

音楽会のための作品を中心にすえた練習を再開して2回目。なかなか難しい。進め方がだ。一度取り組んだメンバーにとっては再確認。しかし

新しいメンバーについては一からのスタートだ。何度かローテーションを繰り返す予定だが、曲によってはあたる回数が少なくなる可能性はある。こちらが指示を出さなくても、周囲の状況を見て補完しあえる心遣いが必要だ。個人の責任を唱えるのも結構だが、結果的に全体のスキルの問題として跳ね返ってくるという事実は忘れて欲しい。その目を持つことが本当の優しさに繋がる。